

労農連帯を一層強め、三里塚・ジェット闘争を貫徹しよう!

「本部」反動分子の全国大会乗り切り策動に利用された利己主義者。

本紙前号でも紹介した通り、熊本大会に「特別代議員」や「傍聴者」としてかり出された七名の裏切り・密通分子は、各支部における追及・一掃行動の中で連日、「本部」革マル分子によって「防衛」されてやっと出勤・退庁しているありさまである。この密通分子達は、全国大会にかり出されたことをいろいろな言い方で弁解し、正当化しようとしている。「大会に行つて何が悪い」と居直る者、「ただ様子を見に行つただけだ」と言い逃れをはかる者などさまざまである。しかし、この七名の裏切り・密通分子が、等しく「本部」革マル反動集団の「金と酒とあそび」の「人間関係」づくりによる勤労千葉破壊策動の先兵であることはいかなる言辭をもつてもごまかすことのできない事実である。徹底的に追及し、一掃する大衆的行動をさらに各支部で展開しなければならぬ。

木皿 格和 竜崎
「新小岩」

「本部」反動分子に「防衛」されて出・退勤する裏切り分子!

新小岩支部の裏切り分子、木皿・格和・竜崎の三名はそもそも右翼的分子であり、「指導員」↓助役」への出世をこい願ひ、新小岩支部組合員の説得行動に対し、「本部」暴力集団にくみすること「指導員になれなかつた私怨である」と明言し、「年休」の扱いをはじめ新小岩支部がこの間の闘いでかちとつた職場慣行を無視して列車の運休までさせて全国大会に参加するという全くの利己主義者なのである。

暴力とデマ宣伝による勤労千葉破壊策動が勤労千葉のまじめな組合員に相手にされず、全国大会の迫る中進退きわまつた「本部」革マル反動集団は、こうした連中に出来もしない「約束と甘言」||「指導員・助役にしてやる」、「金と酒とあそび」の「人間関係」づくりをもってこの悪質分子達を勤労千葉破壊の先兵にしたて上げたのである。熊本全国大会をのり切るために裏切り分子を公然と登場させ、さらしものにしてしまった革マル



反動集団は、当の裏切り分子が全くの反動であり利己主義者であるが故に勤労千葉の組合員からの正当な追及に論理的に受け応えてくれるはずもないことを知り切つており、物理的「防衛」すること以外にすすべもないのである。こうして、「勤労千葉は恐怖政治を行っている」という口実をデッチ上げて革マル反動集団の全国大会以降の「オルグ」は開始された。しかし、「オルグ」団そのものが全国大会の破綻に打ちのめされているために、「死にそこないの秋のハエのようにうるさい」ばかりで全く中味のない「オルグ」にならざるを得ない。全国大会で鮮明となつた「本部」反動集団の破産||勤労大改革の前進は大会後も着々と進展している。着実に強化される勤労千葉の前進の前に、全国大会に職場の悪質分子を狩り集めた裏切り密通分子を丸裸で登場させ、その「防衛」のために中味のない「オルグ」を繰り返す「本部」反動集団の最後の破産は必至である。

局長が替つたから首つた

昨今の「オルグ」の実態(その6)

大活躍の芳原君(新幹線)

八月一四日 八津田沼支部

例によつて裏切り密通分子の島田、斉藤(吉)の「防衛」||勤労千葉破壊のために芳原(新幹線地本)を責任者とする「五名の「本部」革マル集団が現われる。

一五名全員が乗務員詰所に入ってくる。これを見てあわてたA助役・「約束が違ふ。乗務員詰所にこんなに多勢入られたらこまる。今日の責任者は誰か」。

芳原某。「何をいうか! 局長も替つたことだし、お前なんか首だ!」?

「本部」反動集団はこの間、当局に泣きつき「職場に入り込んで勤労千葉破壊策動をすることを保障してくれ」と哀願し、当局から「4・17のように電車の止まるような業務妨害をしない」ことを条件に「少人数のオルグ」を許されている。A助役の「約束」云々も芳原の「クビにするぞ」もこのような「当局と親衛隊」の日常的関係の中から思はず出てくる言葉なのである。

元関東青年部常任・芳原某なる男

は、勤労千葉破壊オルグの煽りに千葉駅から勤労千葉本部へ「いやらせ電話」をかけているところを勤労千葉の活動家に発見され、大急ぎで公安室に逃げ込み、乗車証を提示して保護を願ひ出るなど、当局と癒着した生粋の暴力分子である。この間の勤労千葉破壊策動にも卒先して参加し、数々のエピソードを残しているが、今回の革マル密通分子「防衛オルグ」でも本紙10回で紹介した「裁判所とは手を組める...」発言をはじめ「大活躍」である。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ!